

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	11	課題区分	B	令和4年(2022年)3月 30日
横断的な課題	2交流と地消地産や産業振興による地域の活性化					上田地域振興局
地域重点政策	2産学官金連携、広域連携による基幹産業の振興					
実施機関	上田地域振興局			担当課	所属	農地整備課
事業名	傾斜地水田における自動給水システム導入促進事業				電話	0268-25-7130
					E-mail	uedachi-nochi@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	自動給水システムの導入課題を整理し、傾斜地における水稻栽培の競争力強化を図る				
	現状と課題	これまでの水稻栽培では、ほ場の大区画化により機械の効率化を上げ競争力強化を図ってきたが、50a以上の水田整備率では、全国の10.6%に対して、上田管内では傾斜地が多いため0.6%と進んでない。(県全体1.9%) 一方、水管理労力の約80%の経費削減が可能な自動給水システムの導入も、競争力強化に有効とされ全国的に導入が進みつつあるが、通常、ほ場1枚に1式設置することから面積の小さいほ場が多い上田管内では設置費用が高額となるため導入は進んでいない。 このため、全国に対して水稻栽培の農業競争力の低下が懸念されている。				
	内容 (変更後の内容)	1 自動給水システム実証実験 大区画化できない要因となっている傾斜を逆手に利用し、面積の小さい複数枚のほ場を1式の自動給水システム(給水装置+水位センサー)で水管理を行う実証実験を行い、上田地域における同システムの導入の可能性を検証する 【実証方法】 棚田や、担い手農家が営農する傾斜地にある複数枚のほ場を選定(2地区を予定)。 最上段のほ場に給水装置を設置し、田越しかんがいいにより最下段のほ場まで水を供給する。 最下段のほ場に水位センサーを設置し、感知した水位によって自動で最上段の給水装置の開閉を行い、複数枚のほ場の水位を一括して管理する。 水位データの検証や生産者のアンケート調査から、課題や有効性について整理する。 ・連携団体等: 稲倉の棚田保全委員会、農業生産法人、県試験場、製造メーカー				
	事業期間	R3年(2021年) 4月		～	R4年(2022年) 3月	
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容		計画(実績)額	備考	
	自動給水システム実証実験	傾斜を利用した自動給水システムの実証実験を行いアンケート調査を実施する		187,000	管理委託(2件)	
	合計				187,000	
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況
	実証実験データの取得/解析地区数			2地区	2地区	● 達成
						○ 一部達成
						○ 未達成
事業実績・成果	本事業により、中山間地域の条件が違う(区画整理事業を実施済、未実施)2地区を選定し実証実験を行った。 実証実験結果については、県内の各地域振興局農地整備課職員に対する技術発表会を通じて実証実験の結果について報告を行い、全県への波及拡大も図ることができた。					
今後の方向性	本年度の実証実験結果をもとに、上田管内の担い手農家を対象とした現地見学会を開催するなど、同システムによる水管理節減効果を周知していく					